

講義名	研究演習
講義コード	45029
担当教員	山川 拓也
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 5時限
備考	

ゼミ

山川拓也ゼミナール

学部

人間社会学部・商学部・経済学部

学科

演習名

観光商品論 / 観光資源開発論 / 観光地域マーケティング

概要説明

観光経験としての「生活文化体験」をキーワードに据え、地域を < 売る > ための手段の一つとされる『観光商品』を問い直します。そして、そこでのベースとなる考え方や企画開発の手法について、理論と実践の両方から学んでいきます。社会での消費に対するニーズやトレンドの変化、外国人旅行者の増加などから、地域における旅行者の観光スタイルが多様化していることを受けて、“Think globally, act locally. Think locally, act globally.”（世界視野で考え、ローカルに行動する。ローカル視点で考え、世界を相手に行動する。）という規範に準じて考えていきたいと思えます。実践的な学術に向けた取り組みとしては、地域のローカル性を深く理解するために各種ワーク類を実施したり、そこで得られた気づきや情報を活かした具体的な仮想ブランドの検討、発表機会の設定などを考えています。そして、焼畑となる翌年度の研究演習では、観光商品企画コンテストへの参加、学会ポスターセッションへの参加なども検討したいと思えます。これまでの枠組みにとられないクリエイティブな視点・観点から、観光資源を発掘して商品にするためのアイデアを出し合い、観光イノベーションの新天地を切り拓いていきましょう。

学位

博士（経済学）

教員よりの要望

ゼミ運営ポリシーは、「真面目に楽しく研究する、楽しく真面目に研究する」です。そこで必要となるのは、ゼミに対する皆さんの「前ノメリな姿勢」です。実際の「観光」は学外にて起こるものですから、必然的に現場に向いているフィールドワークなども発生してきます。また、他大学で観光を学ぶ学生、私たちの研究に関係してくる地域の方々とのディスカッションや交流などの機会も生み出していきたいと思っています。したがって、それらに対して積極的に関われない人・関わらうとしない人は、このゼミに向いていないと思えます。ですが、ただ与えられるのを待つのではなく、互いに協力しながらゼミでの「価値」を共創することに向き合ってくれる人にとっては、充実した意味のある経験・学びに昇華させることができると思います。

教員英字氏名

Takuya YAMAKAWA

研究室

研究棟 5418

最終学歴

大阪府立大学大学院経済学研究科 経済学専攻 観光・地域創造分野 博士後期課程修了

主な研究活動・社会活動・研究業績

【研究テーマ】 観光経験としての『生活文化体験』の商品化
研究の中心に「異文化体験としての旅行」を据えつつ、新たな観光商品開発や地域ブランド戦略、コミュニティ・ツーリズムなどに関心を寄せています。
【主な社会活動】
（広島）安佐商工会青年部 かわなみサイクリングロード実行委員会アドバイザー、（広島）横川地区魅力発掘・発信検討委員会アドバイザー など
【主な研究業績】
山川拓也（2015）「海外旅行における文化的価値を基盤とする旅行業の再定義化：旅行会社の商品マーケティング戦略における文化論的視点」『日本国際観光学会論文集』22：97-102。（査読付論文）
崔載弦・山川拓也（2016）「新しい観光のコンセプト：韓国における公正旅行と訪日観光」『日本国際観光学会論文集』23：91-99。（査読付論文）
山川拓也（2017）「ハワイへの日本人観光パッケージツアー商品の生産と消費に関する一考察：マクドナルド化とエスノセントリック性の観点から」『広島文教グローバル』1：47-61
山川拓也（2018）「団体ヨーロッパツアー造成に関する研究：異文化間インテグレーターとしての添乗員機能の分析」博士学位論文（大阪府立大学）

主な卒業論文のタイトル

【2016年度 - 2018年度】（前任校での論文指導）
観光でのスペース・シェアリングと異文化交流の関係についての研究
訪日外国人旅行者の旅行態度とその認識に関する研究
広島県のインバウンド観光活性化に関する研究
空港業務におけるサービス機械化に関する研究：羽田空港と“変なホテル”を事例に
高齢化社会における観光
出雲大社観光の光と影：地域におけるホストとゲストの関係性に着目して
高齢者観光における身体的サポートの研究：バリアフリー化と車椅子使用に着目して
中山間地域における地域振興施策の課題：“ひろしまさとやま未来博2017”から考える効果的な地域振興施策とは
東京デイスニーリゾートの顧客満足（CS）に関する研究：企業と顧客における価値共創の視点から
ファンツーリズムに関する研究：広島における新しい観光の創造
オタクの「コト消費」マーケティングに関する研究
伝統的郷土芸能である「神楽」の伝承に関する研究：後継者不足問題と団員の心理との関係性

趣味・特技

海外旅行（その生活文化が垣間見える路地裏を歩く、リゾートでのんびりする、A級・B級を問わず美味しい食事を探し出す、この3つが特に好きです。）
神輿担ぎ（毎年、京都の祇園祭で神輿を担いで奉仕しています。また、昨年から大阪・天神祭の神輿にも奉仕する御縁をいただきました。）

所属

人間社会学部 観光学科

所属学会

日本マーケティング学会、日本国際観光学会、日本観光研究会、観光学術学会

専門分野

観光マーケティング（観光商品論、観光資源開発）、コミュニティ・ツーリズム

選考方法

・選考については、個人面接ならびに提出書類（申込書・成績通知表）によって、総合的に審査します。
・公開カイダンスに必ず出席してください。出席なき場合には、選考に影響を及ぼす可能性があります。
・選考によって認められた人については、「文化観光論」（前期）ならびに「観光施設計画論」（後期）の履修を条件とします。

担当科目

旅行事業経営論、文化観光論、観光地理学、観光施設計画論、自己発見とキャリア開発A・B、研究演習

備考

なるべく早めに計画して確認と調整を行います。活動の内容によっては週末（土・日・祝）や長期休暇中（春休み・夏休み）に実施することもあります。また、ゼミ活動における諸費用（交通費など）については、出来る限りの配慮をしますが原則として各自の負担となることを予め承知しておいてください。

評価方法

ゼミ運営ポリシーの理解ならびに実行、取り組みの姿勢（積極度、協力度、貢献度、参加態度など）、タイムマネジメント（出席、遅刻、早退、期限など）、研究課題の内容（各種ワーク類、成果物、発表・プレゼンなど）を鑑み、総合的に評価します。